

# 2022年度 埼玉東上地域教育プラットフォーム高等学校調査報告書

TJUP 学生募集推進グループ

調査年度：2022年度

調査対象高等学校：プラットフォーム参加大学・短期大学による高等学校訪問等でデータ提供いただいた高等学校（非公開）

調査対象：2022年3月卒業生

報告者：長井和也（東邦音楽大学）

報告日：2022年9月22日

## 1.高等学校への調査目的

埼玉東上地域教育プラットフォーム(TJUP)では、地元生まれ育った人が、地元で学び地元で活躍できる地域づくりに貢献することを目的に活動を行っている。そこで、TJUP参加大学・短期大学近隣の高等学校を中心に依頼し、地域の高等学校のニーズを把握し、今後の方針・展開を検討するために以下の調査を行った。

## 2.調査結果

### 1)大学・短期大学進学率

調査した高等学校の大学・短期大学進学率は平均して 67.6%であった。令和3年度の調査結果ではあるが、大学(学部)・短期大学(本科)進学率全国平均は **58.9%**（文部科学省令和3年度学校基本調査）であり、今回の調査高等学校の進学率は全国平均より **8.7** ポイント高い結果であった。

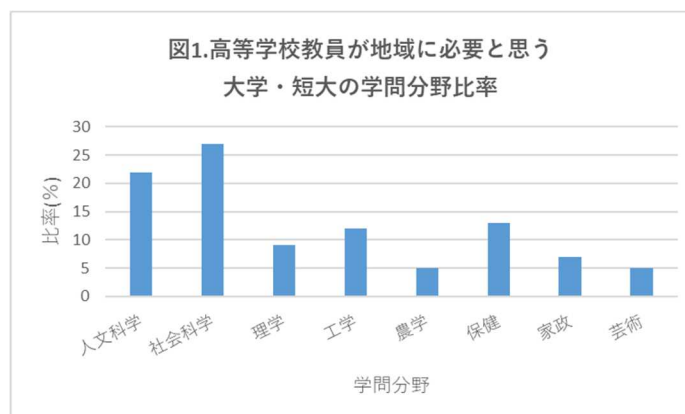
### 2)埼玉東上地域に所在する大学・短期大学への進学率

調査対象高等学校から埼玉東上地域の大学・短期大学への進学率は 30.6%と少ない。令和3年度の調査結果ではあるが、大学入学者のうち「自県（出身高等学校と同一県）内の大学へ入学した人（率）の比率」について、全国平均は **44.3%**、埼玉県は **36.0%**（文部科学省令和3年度学校基本調査）であり、埼玉東上地域も含め、埼玉県の高校生は他の地域にある大学へと進学する傾向が顕著であることが明らかになった。

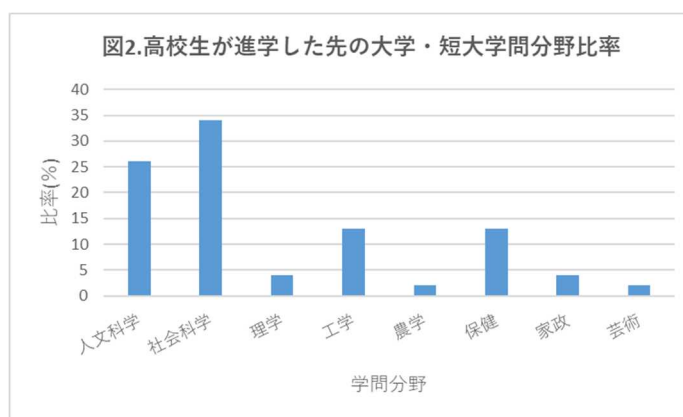
### 3)地域に必要な大学・短期大学の学問分野

高等学校に、埼玉東上地域の大学、短期大学に必要な学問分野を聞いたところ、

図1のような結果となった。人文科学・社会科学といった文化系学問の比率が多く、また理科系学問では工学や医療・保健といった実社会に役に立つ学問へのニーズが高等学校教員側では大きいことがわかった。



では実際に、高校生が進学した学問分野について調査した結果が図2である。図2からは、人文科学、社会科学分野に進学する高校生の割合が、高等学校教員側が望む進学率よりも非常に多いことがわかる。社会科学分野には、法学・政治学・経済学・経営学・社会学が当てはまり、昨年度の本調査同様、同分野への進学率がかなり多い結果となっている。



#### 4)大学・短期大学との連携

大学、短期大学との連携について、計画中・実行中のものについて調査した。定期的な交流(講演会等)、出張講義、大学施設の見学ツアーの実施などを通して、専門的な知識や設備に触れる機会を設け、高校生の将来の進路意識を高める契機、学習意欲の向上につなげる観点での連携についていくつか挙げた。

#### 5)埼玉県の大学・短期大学への期待

埼玉県の大学・短期大学に対する期待を自由回答で記載してもらったところ、以下の意見が得られた。

- キャリアや進学に関する教育の充実
- 地域に就職したいと考えている生徒が多いのでその点に期待します。
- 優れた研究成果と開かれた大学教育をお願いします。
- キャンパスツアーなど
- 身近な大学として、中高生たちが専門的な学びに触れる機会を多く作っていただければと思います。
- 地域と連携した研究に取り組み、卒業後も地域、地元に残り活躍してくれる人材の育成。
- 研究力が高そうな学校には、一定数必ず志望者がある印象です。
- 地元への就職と将来的な地域創生への貢献を果たせる人材の育成に期待しています。特に、個人的な見解ですが保健医療分野や理系各分野でそうした人材が増えてほしいと考えています。
- 東上地域は、本校の埼玉県内進学者の内30%以上の進学者がいるエリアです。個性豊かに様々な分野の学部学科が増えてくださると、より希望者が増えると思います。

### 3.まとめ

TJUP 参加大学・短期大学は高等学校教員が地域に必要と思っている学問分野を有しており、その比率もニーズと合致している。今後も TJUP 参加大学・短期大学と、地元の高等学校との話し合いを密に行い、高校生が地元の大学・短期大学に進学したいと思える、教育の「見える化」を進める為にこれまで以上の連携方法を検討する必要がある。